

平成27年度 第1回遺跡見学会 平成27年6月6日(土)

たかぎ ひかわ

さいたま市
西区高木

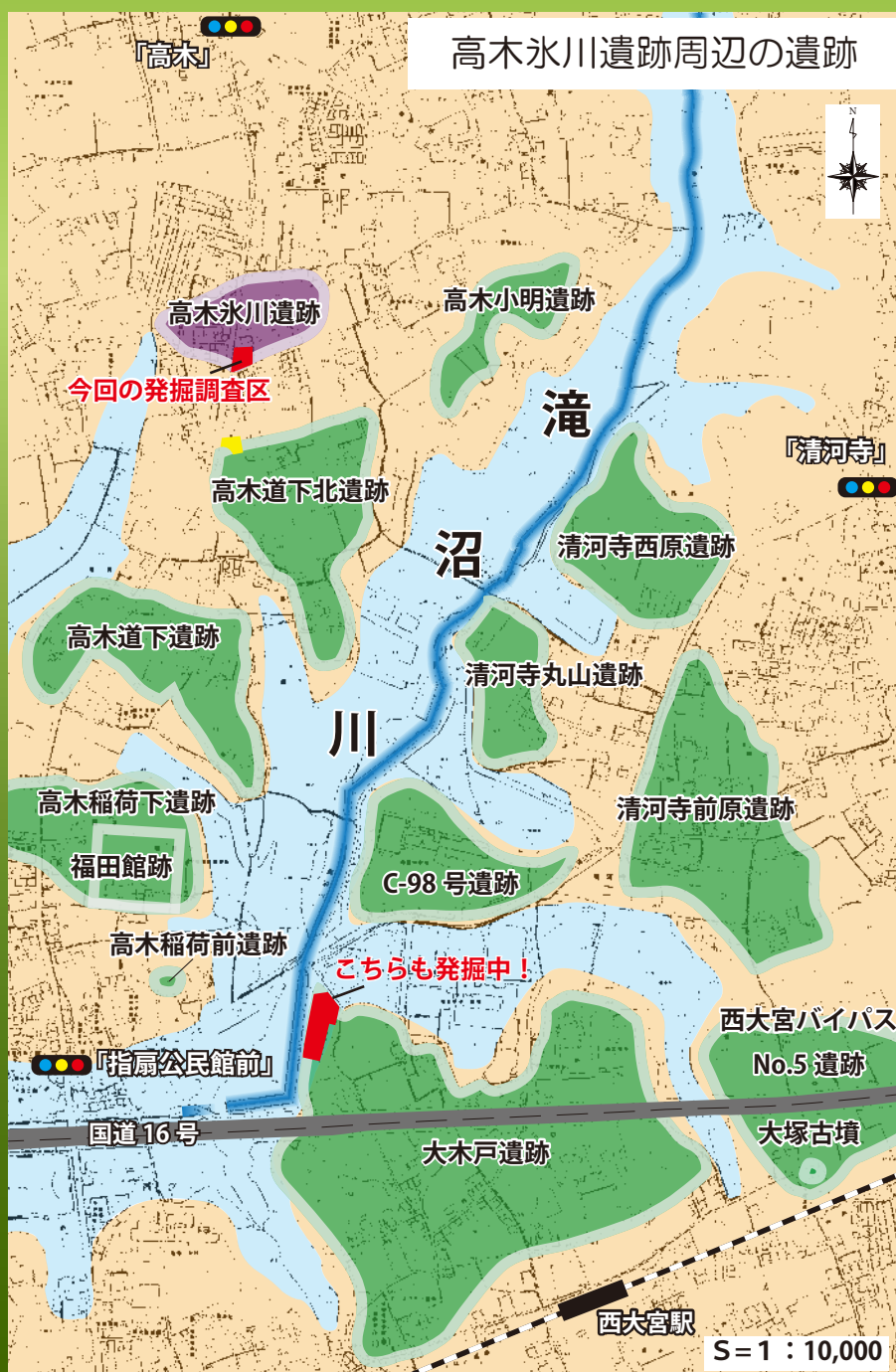
高木氷川遺跡 (第1次調査)

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、大宮西部特定土地区画整理事業に先立ち、高木氷川遺跡の発掘調査を行っています。

高木氷川遺跡は今回が初めての調査となります。大宮台地上には高木氷川遺跡をはじめ、周辺にも数多くの遺跡があります。

調査の結果、縄文時代中期(約4,300年前)の^{たてあなじゅうきよあと}竪穴住居跡が4軒と、^{どこう}土壇が約40基見つかりました。^{せきぞく いしざら すりいし}竪穴住居跡からは縄文土器をはじめ、石鏃や石皿、磨石の破片などが出土しています。

今回の調査によって、高木地域に住んだ縄文人のくらしの一端が分かってきました。



遺構を掘る前の様子
(白線で囲んだ部分)



発掘作業の様子

発掘では、遺構を手掘りで丁寧に掘り下げ、写真を撮影したり、図面を作成して記録を残します。



主催：公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：埼玉県教育委員会

第1号住居跡

ふかばち ろ 深鉢と炉が見つかる！



炉の脇から出土した
ふかばち
深鉢



炉跡



第3号住居跡

たくさんの土器片が出土！



掘る前の様子



掘り下げた後の様子

第4号住居跡 変わった文様の土器が出土！

もんよう



ふかばち
逆さまに出土した深鉢



第1号住居跡の炉跡は、土器の破片で炉を組んでおり、「土器囲い炉」と呼ばれます。中は真っ赤に焼けており、よく使われていたことがわかります。

ヒスイ製の磨製石斧

ませいせきふ



この磨製石斧は、かなり風化していますが、自然科学分析の結果、ヒスイの一種とわかりました。

どこから持ってきたのでしょうか？

高木氷川遺跡概略図

